

鞍手町におけるGIS システムの活用と今後の展望

平成28年11月22日(火)

鞍手町役場 総務課

井料 知己

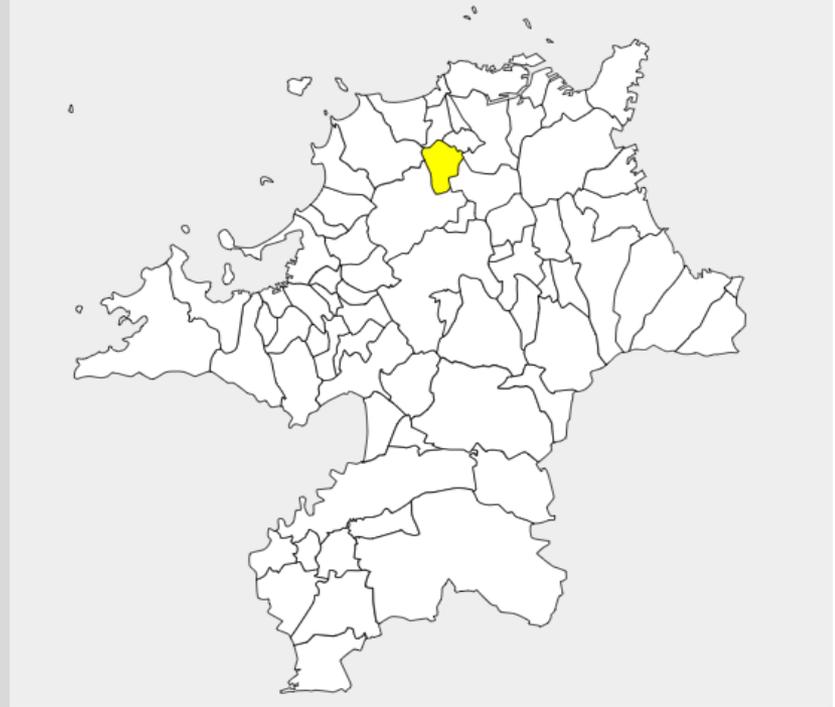
鞍手町です

人口 16,521人(平成28年10月31日現在)

職員数 137名 総務課電算係 2名

隣接自治体 北九州市、直方市、宗像市、
中間市、宮若市、遠賀町

産業 農・畜産業においては、ブランド力のある
製品(卵など)を生産しています。
巨峰の生産も盛んで、ブドウ狩りを楽しんで
いただけます。



くらて学園 統合により廃校となった学校を丸ごと活用して、オタク文化総合コンテンツ
イベントを毎月行っています。テレビ、新聞等で取り上げられ知名度も少し
ずつ上がってきています。
詳しくは、鞍手町HPから確認ください。

鞍手町KRIPP加入までの経緯

1. 平成27年10月北九州市と近隣16市町が、各市町の首長で構成する「北九州都市圏域トップ会議」を設置し、「**連携中枢都市圏**」の形成に向けて協議を開始
2. 同月「第16回福岡県北東部地域及びその周辺地域で活用可能なGIS導入にかかわる検討勉強会」が開催 → **鞍手町初参加**
3. 「連携中枢都市圏」を形成する中でGISの広域利用を図ることにより、**多面的な利用に活用**できると考え、KRIPPへの加入を上長に打診
4. 平成27年12月 KRIPP(北九州地区電子自治体推進協議会 以降 KRIPP) (GIS部会)への加入申請を行い、負担金を当初予算に計上
5. 平成28年4月 KRIPP(GIS部会)へ正式加入
6. 平成28年4月 連携協約正式締結

鞍手町GISシステム導入の流れ

○主なGISシステムの導入実績

1. 平成12年 国保連合会よりモデル地区として国保事業向けGISシステム(C/S版)を導入
2. 平成18年 電算システム更新に合わせて統合型GISシステム(Web版)を導入
3. 平成23年 下水道管理システム(Web版)を導入
4. 平成28年 電算システム更新に伴い統合型GISシステム(Web版)を刷新

KRIPP加入により新たなGISシステムの構築を実施予定。
現在導入に向けて調整中。本格的な運用は、平成29年からとなる予定。

勉強会に参加して

わずか1年足らずですが、開催されている勉強会に出席してみて

重要と感じているキーワードは、

「平時から災害時への連続性が重要」

近年発生している震災のエリアがより身近なところになりつつある今、十分な検討が必要な時期であると考えています。

災害等の事態が発生してから、体制を整え動き出すために相当の時間が必要

職員数が少人数である鞍手町としては、非常事態が発生してからシステムを動かせるようにすることは困難。

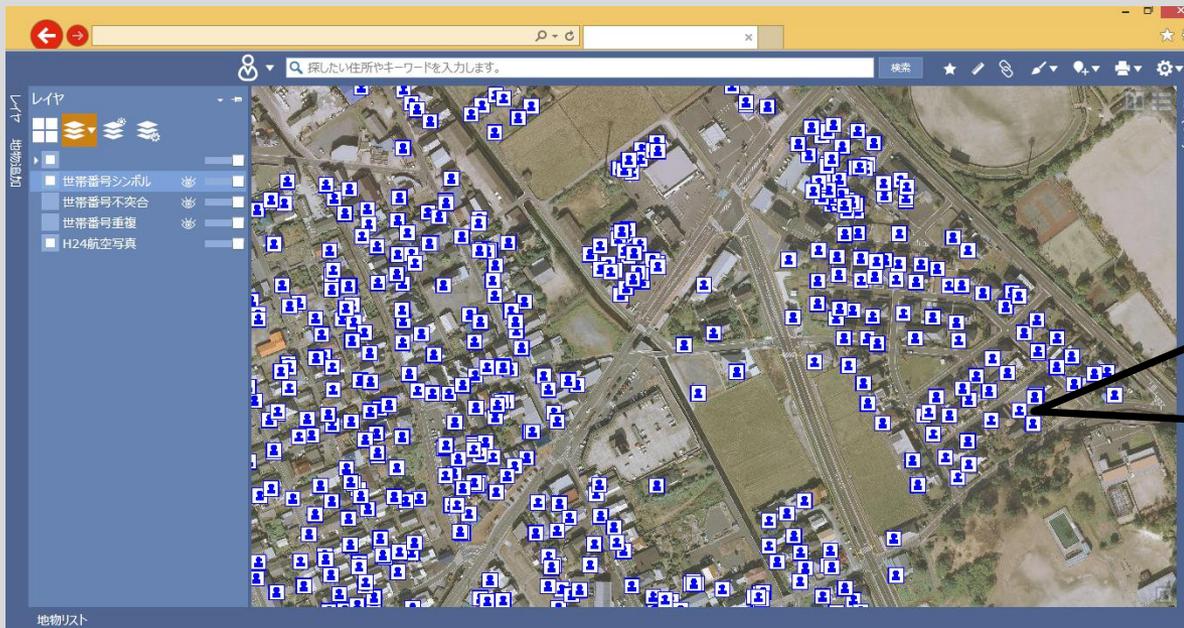
平時からの備えとしてわずかですが準備を始めました。

勉強会に参加して

- 既存のGISシステムに登録されているデータ内容の精度向上

非常時に最優先で必要となる情報である

- (1) 世帯番号入力及び世帯シンボル(世帯情報を管理)
 - (2) 高齢者対象者(高齢者の世帯状況及び緊急連絡先を管理)
- に絞ってデータの整備を重点的に実施中。



日次処理で発生した
チェックが行われた
世帯情報のメンテナ
ンスを行い、最新状
態を維持。

勉強会に参加して

- ・住民情報システムに登録されているデータの定期的な保存

仮にシステムが利用できない状態になった場合でも、最低限の機材があれば、情報の確認や利用が行えるように

(1) 住民情報

(2) 要支援者情報

をCSV形式で自庁サーバ以外にベンダー提供のデータセンターへ定期的に保管を実施。



GISシステムのデータについても定期的に抽出を行い、保管を開始する予定としており現在レイヤを選定中。

今後取り組んでみたいこと

- ・アプリケーションを利用して、GIS情報の持ち出しや現場での情報のリアルタイム更新

現在利用しているGISシステムは、庁舎内で利用することを前提としたシステムであり、現地で収集した情報も持ち帰ってから登録を行う運用しかできません。

ArcGISは、スマートフォン／タブレット向けのアプリケーションの提供も行っており、

- ① 庁内システムで管理している情報の持ち出しが可能
- ② 現地の状況をその場で登録することが可能
- ③ 庁舎内に持ち帰ってさらにメンテナンスが可能

現場に出て作業を行う担当者にとっては、作業にかかる時間のロスを軽減することが可能となるものと期待。

今後の課題

- KRIPP加入団体と同じシステム環境の構築
- 新しいGISシステムの利用者拡大のための体制づくり
- 既存GISシステムとの併存からシステム統合に向けての検討
- 世帯ポイントの構築へ移行できるよう、世帯シンボルの登録データの精度引き上げ
- 紙の地図で管理されている情報の積極的なデータ化
- 災害時に利用可能なデータの平時からの利用と情報収集範囲拡大

最後までご清聴いただきまして
ありがとうございました。